

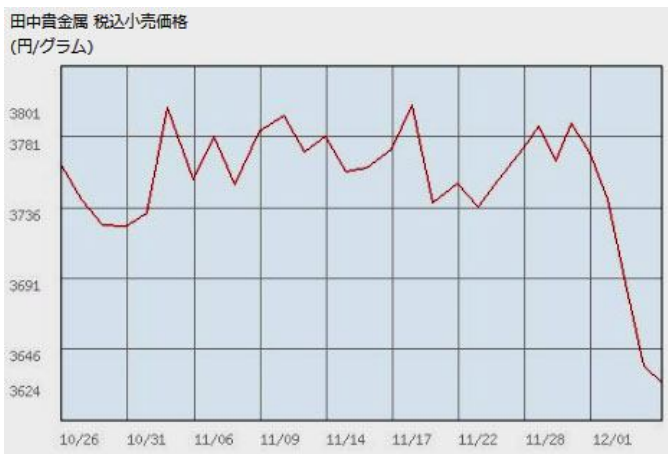
## 「プラチナという金属」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私はプラチナを持っている。持っているといってもたったの10g(グラム)だけだ。「田中貴金属」から購入した、純度99.9%のインゴットである。わずが10gでも4万円ちかくする。10gではなく10kgだったら約4000万円。都内にマンションが買える。100kgあったら、遊んで暮らせるだろう。なぜそんなに高価なのだろうか？



プラチナ(Pt)は元素である、貴金属であり、宝飾品であり、財産にもなる。普遍的な価値を持つにいたったわけはいろいろあるが、産出量が非常に少ないこと、化学的に極めて安定であること、それに用途が多岐にわたっていることなどが原因である。



図はここ一カ月のプラチナ1gの価格変動だ。プラチナの価格は、工業生産の動向に左右されやすい。何

か経済を左右する大きな出来事があると、一か月で一気に500円近くも上下することもある。

空気は普通無料だし、水も1gの価格が大きく変動することはない。プラチナの価格が大きく変動する理由は、とにかく産出量が少ないからだ。プラチナは産出地も鉱石の総量も、金に比べて圧倒的に少ない。融点が2000℃以上なので製錬や成形も難しい。一体地球上にプラチナのいう金属は、どのぐらい存在しているのだろうか？いろいろな情報を総合すると、全人類が有史以来、金属として手にしたプラチナの総量は約3800t(トン)と計算できる。ものすごい量に感じるが、よく考えるとごくわずかなのだ。

プラチナの密度は約21.5g/cm<sup>3</sup>である。人類が持っているすべてである3800tのプラチナを一か所に集めると、200m<sup>3</sup>にも満たない。大型観光バス1台の大きさがおおよそ100m<sup>3</sup>なので、有史以来人類が苦心に苦心を重ねて手にしたプラチナの総量は、はとバス2台分の大きさと同じいうことになる。これならコメリの駐車場にも並べて置ける大きさだ。



人類が手にしたプラチナの総量 (作図 ; C.Tanaka)

私が持っているプラチナは10gなので、人類が持っているプラチナ総量の約380万分の1を独占していることになる。すごいことだ。

今後5年か10年で、プラチナは、主として工業生産分野でますます需要が高まるだろう。価格も確実に上昇する。私は1gの価格が3400円を切ったら、1kgのインゴットを購入したいと思っている。普段はペーパー・ウェイトとして机の上に置いておく。何年かして4500円まで上昇したら売却する。手数料を引いても、約100万円の利益がある。すばらしい！あ、まずは1kgのインゴットを購入する資金が必要・・・ですね。